

*** 「東京天文台写真集 第一集 天文台の回顧」を発見**

天文情報センターにアーカイブ室が出来る以前に石崎氏が「国立天文台デジタルアーカイブ」という写真集を作成している。その最初が「東京天文台写真集 第二集 ～建設の思い出～」となっている。今回、図書室からアーカイブ室に譲られたアルバムが「東京天文台写真集 第一集 天文台の回顧」であった。何枚か欠落があるが、今回図書室から譲られた他のアルバムに見つかるのではないかと思っている。今回のアルバムには

- 1) 天文台の航空写真 (昭和32年 (1957年) 8月頃)
- 2) 創設時の東京天文台 (本郷) : これは東京大学理学部天象台の写真
- 3) 大正時代の麻布天文台
- 4) 大正時代の麻布天文台 (欠落) : この写真は恐らく円錐形のようなドームであろう
- 5) 旧本館 (大正5年起工、昭和20年焼失)
- 6) 65cm赤道儀検収 中央に当時 (昭和2年頃) の平山台長
- 7) 明治2年頒行の暦の写った写真 (脚注がない)
- 8) 65cm赤道儀 (昭和7年頃) 赤道儀と書かれているが、ドームの写真
- 9) ゴーチエ子午環室と65cm望遠鏡ドーム、塔望遠鏡室が写った写真 (昭和23年4月頃)
- 10) 流星儀
- 11) 流星儀三態 戦中・戦後は手製のカメラを取り付けた : と書かれたページに2枚
- 12) 岡山・堂平試験観測 シンチレーション測定用
- 13) 岡山・堂平試験観測 透明度測定用 (欠落)
- 14) 乗鞍コロナ観測所 (冬)
- 15) 乗鞍コロナ観測所 (夏)
- 16) 天文台記念日 昭和40年10月29日 裏庭のパーティ写真
- 17) 天文台記念日 昭和40年10月29日 記念写真
- 18) 宮地政司台長の談話会 (おそらく最終講義)
- 19) 昭和35年正月の記念写真
- 20) 1956年6月20日 セイロン日食観測隊員記念写真
- 21) 1956年6月20日 セイロン日食観測風景
- 22) 昭和24年 岐阜市での掩蔽観測器械 この年日本各地で行われた
- 23) 北海道礼文島日食観測記念碑の写真 昭和23年5月
- 24) 明治30年頃の写真 7人が写っている。

25) ブラッシャー天体写真儀 (麻布時代)

26) 連合子午儀 (大正10年3月:この日付は完成の日付)

以上、26枚のアルバムであるが、現在は3枚が欠落している。1)の航空写真は東京天文台90周年誌の口絵写真(写真1)に用いられたものであり、2)の本郷時代の天象台(写真2)の写真は、東京天文台75周年誌、90周年誌、100周年誌に掲載されている写真のオリジナルと思われる。欠落している麻布時代の東京天文台の写真も、それらの記念誌に掲載された円錐形のようなドームの写真と思われる。



写真1 昭和32年(1957年)8月頃の航空写真

写真1の航空写真は、アーカイブ室新聞に何度か登場していると思うが、菱形基線とその基線尺校正試験棟の細長い建物が見える。ノイズと呼ばれた地域には10mパラボラ太陽電波望遠鏡も写っている。官舎はすべて建っており事務棟として使用されていた台長官舎(14号)も見える。三鷹キャンパスのかなりの部分がまだ畑であった様子が分かる。官舎でない天文台職員の住んでいた建物が2軒あった様子も見える。昭和20年に焼失した本館

跡地は再建のために本格的な建物がないように見て取れる。現在の南館辺りに細長い本館（一）と呼ばれた建物、その南には本館（二）と呼ばれた分光部の建物が見える。

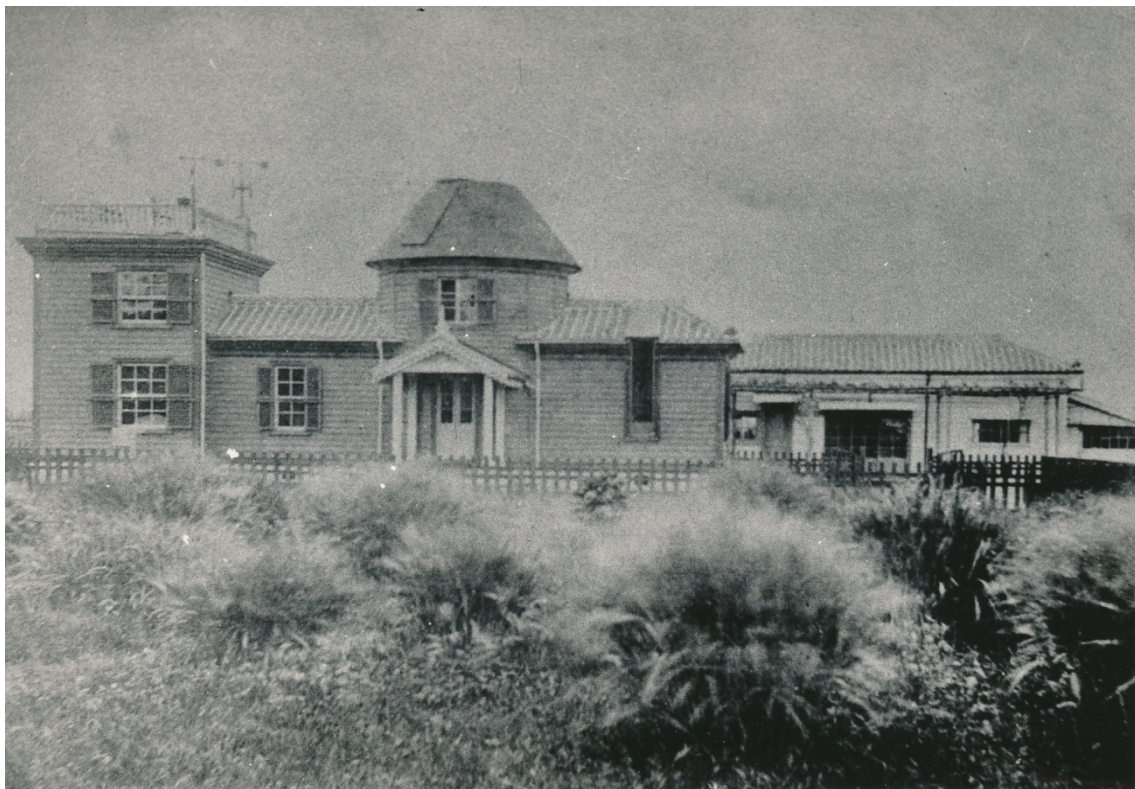


写真2 本郷時代の東京大学理学部天象台

1956年6月20日 セイロン日食観測隊員記念写真（写真3）に移っている日本人の天文学者は筆者でも同定できる。座っている人は、左から古畑正秋元台長、現地人、たぶん外務省の人、秦 茂、海野和三郎、末元善三郎元台長、後に立っている人、左から田鍋浩義、川口市郎、清水実、高窪啓弥の各氏である。



写真3 1956年6月20日 セイロン日食観測隊員記念写真

そのセイロン日食の観測風景（写真4）は初めて見るものである。そして岐阜の掩蔽観測器械（写真5）の写真も始めてみるものだ。



写真4 1956年6月20日 セイロン日食観測風景

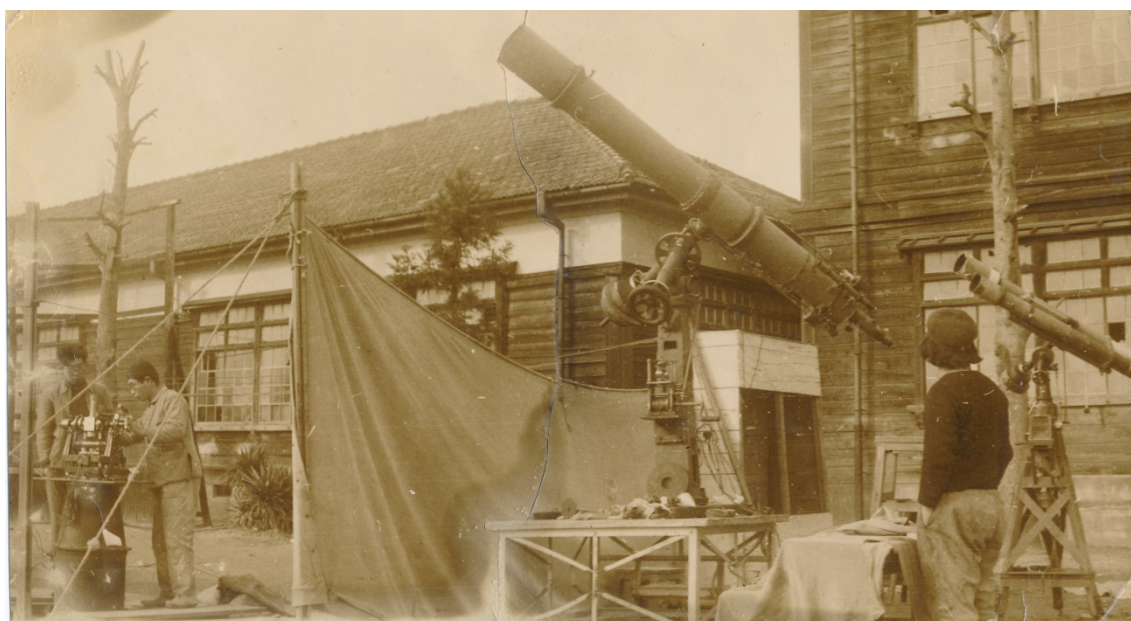


写真5 昭和24年 岐阜市での掩蔽観測器械

このアルバムにあった23枚の写真はデジタルアーカイブした。そのうちしかるべきサイトに置くことになる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp